

言心先生の中国便り

震災からの教訓

2011年3月11日、日本の東北地方で大地震と大津波が発生した。

三年前の2008年5月12日には、中国四川大地震が発生した。

この二つの大地震とも、沢山の人命が奪われた。しかし、東北震災の大多数の死者は、地震ではなく、津波が原因でその生命を奪われた。例えば、石巻市の大川小学校の74名の生徒と、11名の教師は、津波に吞まれて、犠牲になった。

報道によると、地震の直後、大川小学校の先生は、学生を広場で集合させた。数名の生徒が集合場所になかった為、全員が避難せず、待機することとなった。また、校舎の近くの山に避難せず、列を作り、大通りを歩

いて、遠回りした。この二つが原因で、最も大切な時間を無駄にして、大きな犠牲を払った。

正直に言うと、中国では一寸考えられないことである。もし、同じことが中国で発生したら、間違いなく、中国の先生は、生徒を集合させず、列を作らず、直ぐに、近くの山を登らせ、津波から逃れさせると思う。

日本文化においては、秩序・ルールを守る事を、他の民族より、重視している。言うまでもなく、とても良いことである。しかし、自然災害などの平時ではなく、「乱時」、「変時」の場合には、平時に対応する規律に拘束されず、ケースバイケースで、俊敏に行動することが、大きな犠牲を避けるために、何より大切な事である。

中国の四川大地震では、もっと沢山の生徒が亡くなった。原因は、崩壊した校舎に埋れて、犠牲になった

ことである。学校の校長、教育の関係者は、賄賂をもらい、いい加減な建築会社に校舎建造を任せ、「殺人建物」を建て、結局、幼い生命は、一瞬に埋められ、犠牲になった。四川地震の学生の犠牲は、社会の秩序、ルールを守らなかつたことによる犠牲だと思ふ。中国政府が、犠牲になった父母の原因追及を禁止している。もし、中国で再び大きな地震が発生したら、また沢山の学生が、

犠牲になる事は十分に有りうる。

長い間、日本は比較的平和、安全な環境にある。幸いな反面、日本人の平和ボケは、他の国の人より、著しく顕在化している。これから、世界の情勢は、不安定な状況になる可能性は高い。もし、日本が、臨機応変な判断力、決断力を、発揮することが出来なければ、取り返しの付かないことが起こるかも知れない。

秩序・ルールを守る日本人



自然災害などの
変事の際は、規律に
拘束されないこと
が大切だ…